



発行：近畿長野県人会 会長 高坂昌利

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-800

大阪駅前第1ビル8F 長野県大阪事務所内

TEL 06-6341-8191 (代) E-mail:kinkinagano@gmail.com

編集：近畿長野県人会 広報部会

印刷：コア(株) TEL 06-6968-5534

平成31年定期総会・新年懇親会を開催

—135名の参加でにぎやかに—

平成31年定期総会・新年懇親会が1月27日(日)ホテルグランヴィア大阪20階「名庭」で開催された。寒さ厳しい中インフルエンザの流行がピークで心配されたが、来賓・会員合せて135名が出席して会場を盛り上げた。

新年懇親会

新年懇親会は12時から、植松高志副会長の司会のもとに開会。

はじめに高坂会長が「寒い中、このように大勢の皆さんにご参加いただき有難うございます。長野県太田寛副知事様、近隣の長野県人会代表の皆様にご来場をいただきました。長野県は長寿県と言われています。私も喜寿を迎えましたが、今年は県人会の同好会すべてに参加して脳トレ(麻雀)、ウォーキング(ハイキング)、肺の活性化(カラオケ)など健康維持に努力したいと思います。また、多数のお土産・景品をご提供いただいた法人会員様・会員の皆様に感謝申し上げます。」と挨拶。続いて、来賓の方々を紹介した。

来賓を代表して太田寛長野県副知事が「今回で5回目の来阪です。県人会の皆様には様々なご支援をいただいております。長野県は昨年スポーツ界が活躍しました。冬季オリンピックで小平選手などが金メダルを獲得、名古屋場所で御嶽海関が優勝、J2松本山雅が優勝、今年も京都の女子駅伝で過去最高の6位入賞、広島男子駅伝は3位入賞するなど好成績です。長野県は15年連続で移住したい県のNo. 1です。観光客も世界各地から来るようになり、6年前の35万人から昨年は130万人、今年は150万人を超える見込み。県の職員全員で盛り上げていきます。」と挨拶。

祝宴は小林道明副会長の乾杯の発声のもとに幕を開けた。



会報「信濃」は創刊100号になります!! 100号を記念して、創刊当時の故郷の思い出などを6名の方から寄稿いただき、4ページを増やして特集しました。(P. 12~14)

祝宴開始

会場の15テーブルには八寸・造り・温物・焼物・笹巻きちまきなどが順番に配られ、ビールの他、寄贈された地酒・焼酎・りんごワイン・シードルなどがバーカウンターに並べられ、会員は好みの美酒を酌み交わし、親交を深めあった。

食事が一段落してからスピーチタイムとなり、長野県大阪事務所山下武喜所長が挨拶、赤岡薫次長と近藤典子係長を紹介した。

近隣の長野県人会代表の皆様は京都長野県人会有賀一夫会長、兵庫県長野県人会塩入哲夫副会長、淡海長野県人会清水晃会長、在広島信州県人会篠原道正会長、渡邊洋征事務局長の5氏が順番に挨拶、近況を紹介した。

当県人会顧問の田辺三菱製薬(株)土屋裕弘相談役が、参加者全員にプレゼントされた乾燥性皮膚治療薬の「レグケア」と胃腸薬「ウルソ」の薬効についてPRされた。

お楽しみ抽選会

お楽しみ抽選会は中井良策常任理事が進行総括。希望者に配布された『1%の力』『下りのなかで上りを生きる』など書籍の紹介の後、小倉尚子副会長と小倉智子理事の進行でスタート。

抽選会の景品は会員・法人会員提供103点。はじめに北野建設加藤収大阪支店長から亥年生まれの会員12名に「干支刺繍入り紅白タオルセット」が贈られた。続いて景品提供者によって一言スピーチと抽選が行われた。

池田和正顧問から大丸商品券五千円を4名に、旭松食品木下博隆社長から商品詰合せ15名、

伊那食品工業伊藤哲成大阪支店長から野沢菜漬20名、信州ハム滝沢孝明関西営業所長から熟成ロースハム15名、八十二銀行山岸伸弘大阪支店長からノベルティ詰合せ8名と県産ワイン・サン・クレール「シャルドネ」2名、部奈久能理事が代理で喜久水酒造りりんごシードル4名、会員の玉井成男さんツムラのくすり湯「バスハーブ」1名、清水嘉江子副会長「播磨屋おかき」15名、小倉尚子副会長・小倉智子理事から「紅茶と日本茶セット」が5名に、それぞれ贈られた。

遠路、下伊那郡阿智村から出席の昼神温泉ユルイの宿「恵山」の田中尚夫社長が「この会に参加して10年、今年恵山は創業25周年を迎えるので当選者には貴賓室に宿泊していただきます」と宣言、「恵山ペア宿泊券」の1名を抽選、竹内俊隆顧問が当選した。抽選会の最後は小林道明副会長から商品券5種を各2名に提供、10名が残り福を得た。

抽選にもれた30名余の会員には圓山武顧問から飯島町の「栗羊羹と大豆菓子セット」が提供され、抽選会が終了した。

続いて「ふるさと信州の歌」。小林昭夫理事の音頭で、童謡「里の秋」と「ふるさと」を合唱、小林道明副会長の音頭で「ほけます小唄」を歌った。最後に県歌「信濃の国」を出席者全員で斉唱。植松高志副会長による「フレイフレー長野!」のエールの後、掛川俊一副会長が閉会の挨拶、新年懇親会は幕を閉じた。

清水 嘉江子(松本市出身)

(定期総会の報告はP.9~11に掲載)



新年懇親会の感想

県人会で故郷が鮮やかに蘇える
寺澤 孝 (長野市松代町出身)

北信から関西に出てきて約45年、長野県人はこちらには居ないだろうと思いつつ、日々の生活に埋もれ、年を重ねるごとに故郷のことは忘れかけていました。今回、初めて近畿長野県人会に参加させていただき、同郷のご近所さんが何人かおられて、当時の商店の名前や街の様子が我々にしか分からないキーワードに故郷が鮮やかに蘇ってきました。

「信濃の国」を皆さんと肩を組み合唱したときは思わず目頭が熱くなった自分が居ました。



素敵な時間をありがとう
竹井 廣子 (佐久市出身)

本日はありがとうございました。とっても良い時間が持てて、心が明るくなりました。

私はやっぱり長野が大好き、そして大勢の皆様にお逢い出来て・・・言葉にならない気持ちで幸せです。ドキドキ・ヒヤヒヤの道のりでしたが元氣と勇気を戴きました。日々を大切に努力し、又、これからも皆様にお目にかかれて、この時間が持てる事を楽しみにして過ごして行きます。



心強い思いをしました
田中 ひとみ (下諏訪町出身)

初めて新年懇親会に参加させていただきましたが、食事も、ご提供頂いた各種の地酒もおいしく、信州愛にあふれた盛大な会でした。

会の始まりの頃は緊張していましたが、会員の方々が気さくに声をかけてくださり、次第に緊張もほぐれ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

信州から兵庫県に越して来て15年になりました。近くに大勢の信州出身の方がいらした事を知り、とても心強く思いました。



信州の景色を思い出す
前川 仁美 (以前・松本市在住)

平成30年に入会し、初めて参加したのが今回の新年懇親会です。

長野県出身ではないので少々緊張気味でしたが、美味しいお食事と共に、たくさんの方々から「長野のどちら？」とお声をかけて頂いたり、長野の話をお聞きしたりと、楽しいひと時となりました。そして、なにより、松本に住んでいた頃の思い出や信州の雄大な景色を思い出すきっかけとなる素敵な時間になりました。

今後ともよろしく願い申し上げます。



ふるさと訪問一泊バス旅行 ～“信州の鎌倉”別所温泉から野辺山高原へ～

10月17日(水)～18日(木) 38名が参加して開催された。今回は、東信地区の役員が担当、掛川俊一副会長・地区長を中心に、宿泊旅館から訪問先、観光バスなどを直接手配していただいた“手作りの旅行”を楽しんだ。

【第1日目】 8:30大阪・梅田を出発一恵那SA・特別弁当の昼食—岡谷IC—別所温泉・旅館中松屋到着。夕食前に安楽寺・国宝八角三重塔を見学



安楽寺 国宝八角三重塔

夕食・懇親会 料理は神無月の献立、土瓶蒸しで松茸の香りを楽しみ、シメは松茸ごはん。宴たけなわ、会で用意したお土産「りんご・しなのスイーツ3個」か「清酒・雪国(300ml)」を選択、りんごは希望者が多く抽選。カラオケで盛り上がり、お開きに。

【御礼：懇親会に差し入れをいただきました】

- ・ビール20本：恵山・田中尚夫社長
- ・清酒「百姓物語」：黒澤酒造・黒澤社長
- ・五ーワイン：小林道明副会長

【第2日目】 朝食後、愛染かつら、北向観音など参拝。9:30出発—道の駅・雷電くるみの里で清水駅長の解説—野辺山高原・JR最高地点(昼食・道の駅弁当)—小淵沢IC—19:00大阪着



↑ 崇福山 安楽寺 ↓ 常楽寺 北向観音堂



懐かしいふるさとへバスの旅 秋山 多喜子

故郷への懐かしい思いを胸にバスは大阪を出発しました。中井常任理事の名ガイドに耳を傾けつつ、移りゆく景色を眺め、信州の高い山々が車窓に見えた時は感激しました。

上田市は人工癌研究の第一人者でノーベル賞候補にもなった山極勝三郎先生の出身地で、先生は別所温泉をこよなく愛されたとの事を知り、県人の誇りを感じました。

予定より早く目的地別所温泉に到着。日暮れが早いので、直ぐに安楽寺の国宝八角三重塔を

見学に。どっしりとした塔の重厚さと始まったばかりの紅葉が夕映えにマッチして、古の昔が偲ばれる思いでした。

翌朝、北向観音堂に参拝した時、地元の高校生が清掃奉仕をしている姿にさすがしさと、古い歴史と文化を大切に次世代に繋いでいるのだなと感心しました。

バスは別所温泉を後にして、道の駅“雷電くるみの里”に立ち寄り、資料館で人並みはずれの力持ち雷電の幼少時や、力士になったの活躍を知り、また、実物大の像の大きさに圧倒されました。バスは一路野辺山高原に向かい、途中で浅間山と蓼科山に囲まれた私の故郷・佐久平が広がったのも東の間、あっという間に過ぎてしまい半世紀の歴史が感じられました。

鉄道最高地点の野辺山では待望の富士山には会えなかったが、八ヶ岳連峰に掛かる雲が切れて雄姿を現した時には感激でした。四方の山々の綺麗な紅葉と 美味しい空気に 思わず



雷電くるみの里

深呼吸をしました。

車内ではクイズを楽しみながら帰路につきました。初めての参加でしたが 同郷の皆様と和気あいあいで大変楽しい旅でした。

(佐久市出身)

野辺山高原



近隣長野県人会トピックス

[京都長野県人会]

新年祝賀会・全国女子駅伝大会慰労会を開催

1月13日(日)18時から京都東急ホテルで来賓・会員・選手団82名が出席、開催された。

朝から西京極競技場のスタンドで京都長野県人会旗を掲げて長野県チームを応援し、過去最高の6位入賞と大健闘した選手たちを皆で讃えつつ新年祝賀会・慰労会会場へ移動した。

山口洋子理事の司会、有賀一夫会長の挨拶に続いて長野県太田寛副知事がお祝いの挨拶、選手団代表の挨拶の後、玉城良二監督が選手団を紹介、乾杯、祝宴となった。宴が進みカラオケタイムでは選手たちもリラックスして楽しんだ。最後に佐々木文華主将がお礼を述べ、本木喜幸副会長の閉会の辞でお開きとなった。

(高坂昌利会長出席)



[淡海長野県人会]

新年祝賀・懇親会を開催

1月25日(金)12時からクサツエストピアホテルで来賓・会員20名が出席、新年祝賀・懇親会が開催された。

清水晃会長挨拶に続いて長野県大阪事務所赤岡薫次長が挨拶、宮尾顧問の発声で乾杯、宴に入った。

アトラクションはアルパ(中米のハーブ)をSnowDropの北村有希さんがパラグアイの民族衣装を着て9曲演奏。余興として龍口副会長のハーモニカ演奏で歌い、最後に「信濃の国」を斉唱して閉会となった。(高坂昌利会長出席)



〔名古屋長野県人会〕

新春懇親会を開催

2月2日(日)11時30分から名古屋栄東急REIホテルで来賓・会員など約120名が出席。オープニングに「信濃の国」を全員で歌ってから太田宏次会長が挨拶、来賓として長野県内田雅啓産業労働部長が阿部知事の祝辞を代読、鏡開き、大町市牛越徹市長が乾杯、宴に入った。

今年も長野県内の市町村から首長、関係者など多数が特別参加、地酒やワインの寄贈も多く会員も大いに楽しんだ。余興として大町市「佐々成政おもてなし武将隊」3人の演舞を披露、お楽しみ抽選会があり、最後に全員が輪になって「ふるさと」を歌ってお開きとなった。(高坂昌利会長出席)



〔在広島信州県人会〕

全国男子駅伝大会祝賞・激励会を開催

1月20日(日)午後6時から広島市文化交流会館で来賓・選手団・長野県関係者・会員80名が出席、駅伝大会で3位入賞した「チーム長野」の祝賞会が開催された。

当日、12時30分にスタートした男子駅伝は、長野県から阿部守一知事、原山隆一教育長など多数が応援に駆け付けた。信州県人会は応援団長の名取悦朗副会長が「がんばれ長野県」の幟を多数用意し、会員と一緒に幟を掲げて選手を応援した。

祝賞会では、選手団が入場し全員で記念撮影後、篠原道正会長がお祝いの挨拶、諏訪光昭県会議議員が乾杯、食事が一段落したところで伊藤利博団長、高見澤勝監督から3位入賞報告と選手団の紹介が有り宴が進んだ。(高坂昌利会長出席)



祝賞会



阿部知事の
選手慰労

〔信州駅伝サポート会〕—賛助会員を募集中!—

全国の駅伝に長野県を代表して派遣されるチームの激励や支援をしようと、長野陸上競技協会副会長の伊藤利博さんを代表に「信州駅伝サポート会」を発足させました。

団体・個人の会員から集めた会費を活用して、全国都道府県対抗駅伝、全国高校駅伝、全国中学駅伝などの県代表に支援金を贈呈している。

年会費：団体・1口5千円、個人・1口3千円

【同好会の活動報告】

[上方演芸の会]

◇第2回開催 H31.3.14 (木)

・参加者 27名 (男子20名、女子7名)

国立文楽劇場で上方演芸特選会 (第100回記念公演) を鑑賞。落語・漫才・浪曲・奇術と盛り沢山の演目を楽しみました。

終了後、近くの「あじびる南」で有志の懇親会。

[ハイキング同好会]

◇第17回は雨天中止 H30.12.4 (火)

年末恒例の「灘の酒蔵めぐり」は雨天中止

◇第18回開催 H31.3.16 (土)

・参加者 21名 (男子17名、女子4名)

万博公園中央口に集合し、国立民族学博物館見学と中牧名誉教授 (小川村出身) のミニ講演「元号について」～昼食～日本庭園散策～吹田市立博物館見学～JR岸辺駅前懇親会。

[ゴルフ同好会・みすず会]

◇秋季大会 H30.10.23 (木)

・参加者15名 (男子13名、女子2名)

池田カンツリー倶楽部で秋季ゴルフ大会が開催された。五月平コースからスタートし、後半の綾羽コースでは小雨がちらついていたが、無事18ホールをラウンドできた。

[成績] (敬称略)

優勝 若林正伸 G 96, H 25.7, N 70.3

2位 竹村 章 G 84, H 11.7, N 72.3

3位 高坂昌利 G 104, H 30.3, N 73.7

次回4月18日(木)泉南カンツリー倶楽部で開催



[グルメ同好会]

◇第10回開催 H31.2.22 (金)

・参加者 14名 (男子7名、女子7名)

加賀百万石の伝統と贅を味わおうと、大阪市北区西天満の「佐助」で新鮮な日本海の幸と加賀野菜、地酒などの加賀料理を堪能した。



[カラオケ同好会]

会場: 舞ひろ子の店「舞」(天神橋3丁目)

◇第20回開催 H30.9.3 (月)

・参加16名 (男子8名、女子8名) 初参加1名一人3～4曲を歌い、中にはデュエットもあり4時間たっぷり堪能して、恒例の「信濃の国」を合唱してシメとなった。

◇第21回開催 H30.12.3 (月)

・参加者16名 (男子10名、女子6名)

他の客と一緒にだったので自慢のノドを披露する回数が少なかった。終了後11名が「上海食苑」に行き小籠包に舌鼓を打ってから、次回の会場・カラオケ喫茶「心」で歌い直した。

◇第22回開催 H31.3.7 (木)

・参加者 17名 (男子10名、女子7名)

会場を天満駅近くのカラオケ喫茶「心」に変更。4時間半にわたり歌とおしゃべりを楽しみ、最後に「信濃の国」を歌って散会した。



[麻雀同好会]

会場：大和クラブ(大阪駅前第1ビルB1)

◇第11回開催 H30.10.9 (火)

・参加者 18名 (男子15名、女子3名)

今回は4卓16名で開始、2名は待機、1時間でメンバー交代。

◇第12回開催 H30.12.11 (火)

・参加者19名 (男子16名、女子3名)

下半期大会として熱戦を展開、4回戦終了後、会場前の「まんがん亭」で表彰を行い、懇親会に移った。今大会の優勝は小林道明さん。



◇第13回開催 H31.2.12 (火)

・参加者 17名 (男子14名、女子3名)

本年最初の大会で、4卓で熱戦を展開した。終了後8人で「九州もん」で懇親した。

*次回はH31.4.9 (火) 開催

[大相撲愛好会]

大相撲春場所(大阪場所)で御嶽海関を応援

・場所前の3月3日(日)出羽海部屋激励会に15名が参加。御嶽海関をはじめ部屋の力士の春場所での活躍を期待し交流した。



・3月13日(水)春場所の4日目、小結御嶽海関の応援に24名が集まり、熱い声援を送った。打ち出し後20名が「ちゃんこ鍋「常の山」で、地鶏ちゃんこ鍋を愉しみ、会話が弾んだ。

象山先生ら7人の銅像を建立
～長野市松代町・象山神社～

高坂 昌利

私が生まれた松代町は、「信濃の国」の5番に歌われる象山佐久間先生の生誕地です。町内に象山先生を祀った「象山神社」があります。

創建80周年を迎えた昨年11月25日、松代藩8代藩主・真田幸貫公、象山先生ら7人の銅像が建立・奉納され、除幕式が盛大に執り行なわれました。象山先生は右手に地球儀を携えて世界に目を見開き、幸貫公と並んで立っています。その両脇に門下生の吉田松陰・勝海舟・坂本龍馬など5人の胸像が並んでいます。



象山先生の銅像と二人の奉納者

奉納者は篠ノ井出身でAOKIグループの創業者・青木擴憲会長と青木寶久副会長の両氏です。60年前に外商で立ち寄った際、象山先生の功績を知り、心から感動し感銘を受けたことがきっかけとなって「佐久間象山塾」の開塾・運営に特別協賛され、今回の銅像奉納となりました。

(銘板「銅像建立に寄せて」に詳細記載)

除幕式には両氏のほか真田家14代当主・真田幸俊氏、佐久間昭博氏はじめ銅像になった人物の子孫の方々が出席されました。私も出席の機会をいただき、子孫の方々にお会いして、故郷の先人の偉業に触れることが出来ました。

お土産、酒類、景品等の提供者 (敬称略)

[お土産] -参加者全員に-

- ▽田辺三菱製薬:乾燥性皮膚治療薬「レグケア」他
- ▽伊那食品工業:プチ寒天麺・寒天ぞうすい
- ▽旭松食品:新あさひ豆腐・新あさひ粉豆腐
六花亭チョコレート(難民救済支援品)
- ▽信州ハム:サラミソーセージ(2本入り)
- ▽(株)おびなた:信州戸隠 生そば

[宴会場持込酒類]

- ▽長野県大阪事務所:清酒 500ml 8本
- ▽伊那食品工業:清酒「今錦」 720ml 4本
- ▽喜久水酒造:りんごシードル・清酒 計8本
- ▽松川町りんごワイン・シードル振興会
:りんごワイン・りんごシードル 計10本
- ▽田川善弘:清酒「一滴二滴」 720ml 4本
- ▽中井良策:清酒「井筒長」 1.8ℓ 2本
- ▽近畿長野県人会:清酒「真澄」・焼酎 1.8ℓ 4本

[贈答品]

- ▽北野建設:干支入り紅白タオルセット 12
- ▽圓山 武:栗羊羹・大豆菓子 30
- [お楽しみ抽選会景品]
- ▽八十二銀行:長野県産ワイン 2
ノベルティ詰合せ 8



- ▽ユルイの宿 恵山:ペア宿泊券 1
バームクーヘン(りんごまるごと1個) 3
 - ▽喜久水酒造:りんごシードル 300ml 4
 - ▽池田和正:大丸商品券(5千円) 4
 - ▽小林道明:商品券(1万円~2千円) 10
 - ▽小倉尚子・小倉智子:
お茶専門店ルピシア紅茶と日本茶セット 5
 - ▽清水嘉江子:播磨屋本店 おかき 15
 - ▽玉井成男:ツムラのくすり湯「バスハーブ」 1
 - ▽近畿長野県人会:
伊那食品工業・野沢菜漬(2束入り) 20
旭松食品・商品詰合せセット 15
信州ハム・熟成ロースハム 15
- 法人会員・個人会員ほか多数の方々から
ご寄贈を頂き、心から御礼申し上げます。
近畿長野県人会 会長 高坂昌利

小説集「風は思いのままに」を出版

当会副会長の藤保君子さんは5冊目の自費出版として、標記の小説集を上梓し、1月22日の神戸新聞には「命の重み問う3篇」と、掲載された。

その新聞記事から著書の内容を簡単に紹介します。

藤保さんは40年間の看護師としての実体験を基に、3つの人生物語をリアルに展開し「生きるとは何か」を問いかけている。



1つ目の「誕生」は、准看護師だった20歳の自分をモデルに、司法解剖や三つ子の出産に立ち合いながら、看護師として歩む決意を強くする姿を表現した。

2つ目の「小窓から眺める空」は、定年退職して畑仕事を楽しむ「夫」を主人公にして、妻と二人の日常を穏やかにコミカルに描いた。

3つ目は本のタイトルと同じ「風は思いのままに」で、がんを患う40代の修道女を主人公に、老人介護で働きながら、信仰に支えられつつ半年の闘病後に死を迎える姿を通して、生死の意味を問うている。

藤保君子さんは中野市出身で、現在は姫路市在住。姫路聖マリア病院などに約40年勤務。17年前からは「姫路文学」の同人として筆を走らせ、姫路市芸術文化奨励賞などを受賞している。

平成31年 定期総会 (報告)

新年懇親会に先立ち、午前11時から遠藤正典副会長・事務局長の司会のもと定期総会が開会。はじめに、亡くなられた会員5名のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

次いで、高坂会長が「昨年地震、台風、集中豪雨など多くの自然災害に見舞われ大変厳しい年でした。被害があった方にお見舞い申し上げます。このような中、10月には故郷訪問一泊旅行を開催、また長野県代表チームの応援、同好会の活動など日頃の交流を進めてきました。課題である新規の会員獲得のためプロジェクトチームを立ち上げました。そして本年は役員全員が任期満了になるので改選をお願いします。よろしくご審議いただきたい。」と挨拶。会則に則って会長が議長席について議事を進めた。

平成30年事業報告および収支決算報告

事業報告は事務局の島田宗人常任理事が説明。「昨年は10月に故郷訪問一泊旅行を開催、38名が参加し“信州の鎌倉”別所温泉や野辺山高原などを訪問。夏の高校野球・冬の駅伝大会・ラグビー大会など、県代表チームが活躍、応援にも大勢参加していただいた。また、会報の発行(年2回)とホームページの行事ごとのタイムリーな更新により、コミュニケーションの充実を図りました。」

収支決算は太田豊和 財務部会長が報告。「総会・新年懇親会、故郷訪問一泊旅行、県代表チームの激励祝金などあったが、全体として何とか収支がバランスした決算となった。」

続いて田川善弘監事から監査報告があり、両議案が承認された。

会則の変更

監事に欠員が生じた場合の選任方法について、第5条に「副会長会の決議を得て会長が委嘱する」項の追加を提案、承認された。

今回は、鈴木強平監事の逝去にともない監事が1名欠員となるため、1月15日の監査には新監事として北澤健司常任理事に加わってもらったことを報告、併せて承認された。

役員を選任

役員全員が任期満了で改選となり、逝去された鈴木強平監事・宮下俊彦常任理事・向山英夫理事と、退任された和田慎六理事・豊島貴子理事を除く40名全員(内4名が役割変更)が再任された。新たに木村憲行・小泉倬朗・日置英一・部奈久能の4氏が理事に選任された。

また、長年事務局長を担当された掛川俊一副会長に代わり遠藤正典副会長が新事務局長に就任したことが報告された。

平成31年事業計画および収支予算

事業計画は高坂会長が「今年は本日の新年懇親会と秋に全員懇親会(南信地区・親睦部会が企画)を開催。同好会の活動、郷土代表チーム応援などのほか、新会員獲得のための紹介活動を推進します。会報「信濃」は100号記念号を3月下旬に発行したい。」と説明。

収支予算は太田財務部会長から「新年会、全員懇親会への補助も含め、効率的な運営に努力するが、会員減少は財政的に厳しいので、新会員の獲得にも協力をお願いしたい。」と説明があり、両議案は承認された。

審議終了後、司会の遠藤事務局長から新入会員の紹介、中井良策常任理事から親睦部会の平成31年活動計画、同好会の開催予定・参加者募集などの説明があった。

平成30年収入支出決算(1月1日～12月31日) (単位:円)

	予算	実績	増減
収入の部			
会費収入	3,940,000	3,868,000	△72,000
雑収入	70,000	116,571	46,571
前年繰越金	70,323	70,323	0
収入合計	4,080,323	4,054,894	△25,429
支出の部			
事務局費	400,000	335,233	△64,767
会議費	1,500,000	1,418,276	△81,724
事業費	2,090,000	2,178,916	88,916
予備費	20,000	5,356	△14,644
支出合計	4,010,000	3,937,781	△72,219
次年度繰越	70,323	117,113	46,790

平成31年収入支出予算(1月1日～12月31日) (単位:円)

	予算	前年実績	増減
収入の部			
会費収入	3,340,000	3,868,000	△528,000
雑収入	80,000	116,571	△36,571
前年繰越金	117,113	70,323	46,790
収入合計	3,537,113	4,054,894	△517,781
支出の部			
事務局費	370,000	335,233	34,767
会議費	1,430,000	1,418,276	11,724
事業費	1,640,000	2,178,916	△538,916
予備費	20,000	5,356	14,644
支出合計	3,460,000	3,937,781	△477,781
差引収支	77,113	117,113	△40,000

運営基金 31年末現在高 2,000,000円(見込み)

役員の選任(平成31年 1月27日)

(敬称略)

[会 長]	高坂昌利 (長野市)		
[副会長] 13人	太田 博 (大田市)	太田豊和 (千曲市)	大平文人 (喬木村)
荻原百合子 (佐久市)	小倉尚子 (岡谷市)	掛川俊一 (小諸市)	清住秀夫 (上田市)
小林道明 (長野市)	清水嘉江子 (松本市)	龍口篤夫 (飯田市)	藤保君子 (中野市)
○植松高志 (富士見町)	○遠藤正典 (辰野町)		
[監 事] 2人	田川善弘 (中野市)	○北澤健司 (飯島町)	
[常任理事] 12人	安藤隆雄 (長野市)	加藤信也 (長野市)	北澤正俊 (長野市)
島田宗人 (長野市)	高橋 務 (長野市)	寺島義雄 (長野市)	中井良策 (佐久穂町)
中村紘一 (飯田市)	平林運敏 (塩尻市)	真下喜世彦 (佐久市)	宮沢正久 (千曲市)
○秋山多喜子 (佐久市)			
[理 事] 16人	小倉智子 (岡谷市)	尾崎蒼石 (上田市)	海沼喜邦 (千曲市)
小林昭夫 (小布施町)	佐野泰子 (佐久穂町)	白井彰彦 (上田市)	武田啓嗣 (朝日村)
田中久夫 (上田市)	野池 徹 (長野市)	別府哲夫 (東御市)	真壁戎一 (伊那市)
宮沢忠道 (長野市)	○木村憲行 (松川村)	○小泉倬朗 (上田市)	○日置英一 (岡山市)
○部奈久能 (松川町)			

(注)○印は役割変更・新任

[退任]理事: 和田慎六、豊島貴子 [逝去]鈴木強平監事、宮下俊彦常任理事、向山英夫理事

会則の変更

条項	現 行	変 更
第5条	(役員) 本会に次の役員を置き、総会において選任する。 (1) 会長 1名 (2) 副会長 若干名 (3) 監事 2名 (4) 常任理事 若干名 (5) 理事 若干名 (以下省略)	(役員) 本会に次の役員を置き、総会において選任する。 <u>ただし、監事に欠員が生じた場合は、副会長会の</u> <u>決議を得て会長が委嘱する。</u> (1) 会長 1名 (2) 副会長 若干名 (3) 監事 2名 (以下省略)

(附則 施行期日 平成31年1月27日)

会報「信濃」創刊100号 記念特集

会報100号を達成
顧問 嶋倉 宏

県人会発展の歴史を刻む

会報「信濃」は今回の発行で100号となった。創刊は昭和38年12月1日。創刊以来55年、紆余曲折、紙面体裁を変えながらも、関西と信州を結ぶ「情報の懸け橋」となっている。

創刊号はB5版・縦書き4ページの活版印刷。

当時は「大阪長野県人会」といい、春日弘会長が「昭和37年5月の県人会発足以来の懸案であった会報を発行し、皆さんの地域・職場の紹介、種々の意見を寄稿していただき、会員相互の情報交換を図り、長野県の情報提供をしていきたい」と発刊の趣旨を載せている。以来、その趣旨通り、ふるさと信州の情報提供、会員相互の情報交換のメディアとしての役割を続けている。

私が会員になったのは昭和45年6月頃。大阪駅で高校の同級生の久保田安幸君にばったり出会った。聞けば長野電鉄大阪事務所長として観光客の誘致に務めているとのこと。久保田君は私が朝日新聞大阪社会部員であることを知ると「入会して会報の編集を手伝ってほしい」と言われ、入会と同時に会報「信濃」の編集担当をさせられた。

横書き・カラー印刷に

会員の増加とともに会報の充実が望まれ、私が広報部会長をしていた平成18年9月発行の第75号から横書き・一部カラー印刷となった。平成21年9月、高坂昌利・現会長が編集を担当してからは16ページ、全面カラー印刷となり、一層充実した見やすい会報になった。

(長野市出身)



創刊号の表紙

創刊100号に寄せて
掛川 俊一

会報「信濃」創刊100号の発刊を心よりお慶び申し上げます。併せて企画・編集に携わる方々の熱意に感謝の気持ちでいっぱいです。私の手元には55号より99号まで欠番無く大事に綴じ込まれています。平成8年9月18日付の第55号には、1年後に控えた「長野冬季オリンピック」に対する各方面からの期待が寄せられています。

そして、最終の新入会員の紹介欄には竹岡喜茂さんと私の名前が記されており、今でも県人会の同期生として、集会などでお会いしています。

さて、「信濃」発刊にボランティアで携わる皆様のご努力を、私はこの10年、事務局に席を置き、見てきました。この会報は経費の面から一貫して手作りであり、それだけに企画・編集・発送の作業は大変ご苦勞なことが多いわけです。寄稿されてくる文面も、便箋・レポート用紙等様々で、文字数も希望通りではなさそうです。こうした中で、平成18年9月12日付の75号より横書きの2段組・一部カラー刷りの美しいものになりました。

この「信濃」を心待ちにされている会員さんが多くおられる事もご披露しておきます。行事の案内を受取るも、参加は難しいが、様子は知りたい…社会がネット時代が変わって来ている中、ホームページを開く人も増えていますが、定期的な刊行紙を楽しみにされている方もまだ多いように思われます。楽しみにされている多くの方々のため、紙面の充実と末永い発刊を心より念じています。

(小諸市出身)

ふるさと信州と私

本木 喜幸

私は生まれてから大学まで信州で過ごし、その後京都に出て、今日まで京都で過ごしてきた。70歳を超えているので、信州の時の倍以上京都で暮らしていることになる。しかし、生まれ育った、小さい頃から多感な少・青年期を過ごしたふるさと信州は、何かにつけ忘れ難い。かつて室生犀星は「ふるさととは遠きにありて思ふもの」「異土の乞食となるとも帰るところにあるまじや」と言ったようだが、私はそれとは大分違う。

京都へ来て、盆・正月と、毎年一週間程度は帰省してきたし、今では京都にいても「京都長野県人会」の副会長の任務を持ち、全国高校駅伝・都道府県女子駅伝の応援をしたり、終了後、選手たちと慰労会などで交流もしている。また、京都へ来る修学旅行生たちと一緒に地元の観光宣伝などの応援にも一役かっている。その他、「京都長野県人会」の会報や、会誌「みすゝかる」なども発行して、京都での同県人の交流も図っている。また、京都の人でも 信州に興味・関心のある人たちと「善光寺の御開帳」や「諏訪御柱祭」などのバスツアーをして喜ばれてきました。さらに、個人的にも 親戚のそば打ち名人 に京都へ来てもらい「信州そばを食べる会」を毎年企画して、知り合いなどに楽しんでもらっている。

こうしてみると「信州と私は 一つ」かもしれない。

(松本市出身)



村の「新聞少年」

太田 義明

私の故郷は“北信・西山地方”、西山とは善光寺平の西に折り重なる中山間地域を指して呼ばれる。この地域は山々の中の川沿い・谷沿いに、河岸段丘や丘状地に、点々と集落を形成している。

生まれた村も、なだらかな丘状地に点在する僅か12戸の細長い村だ。村の一番下の家「下ノ家」に毎朝町の新聞屋さんが12戸分の新聞を置いていく。それを学校に行く前に子供が配り歩く。新聞当番の回覧板には戸主の名と購読新聞名が書かれていた。たいがいの家が「信毎」だった。配達代金は新聞屋さんから集落に入る共益費だと後に親から聞いた。雨の日も、風の日も、雪の日も、新聞配りはあったはずだが苦勞して配った記憶はない。多分悪天候の日には親が代わりに配っていたのだろう。ほとんどの家にばあちゃんがいる、お駄賃にキャラメルやせんべいを新聞紙に包んでくれた。それが嬉しかった。うちのばあちゃんも蓋つきの一斗缶の中に、金平糖やかりんとう、揚げせんべいを入れて、近所の子供らが遊びに来ると配っていた。貰う側の喜びと、あげて喜ぶ側がほほえましい。新聞配りは どんど焼きや村の講「オカノイ」、冠婚葬祭と同じように集落が力を合わせて助け合いながら生活するという共同作業の子供向けバージョンだったのだ。

昨秋、久しぶりに実家に帰り、村を歩いた。どこかの家にも柿の木がある。主のいない柿、収穫してもらえない柿があちこちに枝もたわわに実を付け、秋の陽ざしに輝いていた。故郷は限界集落に驀進している。ひと気のない家々を結ぶ道は草に覆われているものの、子供のころに歩いた新聞配達ルートは今もその痕跡を残していた。「新聞少年」だった遠い昔が懐かしく、賑やかだった当時の村人の顔が走馬灯のように浮かんできた。

淡海長野県人会副会長(長野市信州新町出身)

故郷との絆が深まる“いとこ会”

植松 高志

私の故郷は八ヶ岳山麓の諏訪郡富士見町立沢で、実家は農家です。私の父は5人兄弟の総領で、母は8人兄妹の下から2番目と、どちらも兄弟が多い。そこで、私の「いとこ」は父方が11名で1人亡くなったから現在10名、母方の「いとこ」は多分30名くらいだが知っているのは22名、年賀状だけの付き合いが多い。父方の「いとこ」10名は現在72歳から62歳の間で、私と同年も3人いる。今の住所は長野県7名、山梨県1名、京都府1名、私が奈良県である。

昨年、叔母さんのお葬式で久しぶりに会ったメンバーで「いとこ会」を京都・奈良でやろう」となり、兄貴から「11月8～10日の2泊3日で京都・奈良に行く。ホテルの手配、観光スケジュールを立てて」と言って来た。参加者は「いとこ」9名と夫婦参加もあるので合計13名となった。

当日は長野・山梨からの一行を京都駅で迎え、嵯峨野・嵐山散策、トロッコ列車を楽しみ、奈良のホテルに宿泊。カラオケ晚餐会で大いに盛り上がった。

翌日午前は岩船寺・浄瑠璃寺へ回り、午後は興福寺・春日大社・東大寺大仏参拝と奈良公園の散策。

3日目は紅葉真盛りの京都の青蓮院・高台寺。京都駅前の料亭で昼食、お土産店巡り。新幹線をお見送りして2泊3日の「いとこ会」は終了した。

農家に嫁ぎ、腰も曲がった「いとこ」は、修学旅行以来の奈良・京都で、涙も流さんばかりの感激だった。お互いの今までを語り、各自各様に故郷の良さを再確認し、絆の深まる「いとこ会」になった。



信州の正月の思い出

北澤 健司

毎年、新年を迎えると田舎で過ごしたお正月の三ヶ日や松の内の習慣を懐かしく思い出します。

私の住む豊中市の地区では、小さな神社ながら氏子の方々が毎年15日の早朝から正月の松飾りやお札・お守りの類の山を焼くどんと焼きを行っております。氏子ではない私達新参者の正月飾りなども持っていけば快く受け入れてくれ、一緒に焼いてくれます。大変うれしい習慣です。

さて本題ですが、南信州では正月二日の朝はどここの家庭でもすり始めと言って地域で収穫した長いもを搗って、温かいご飯にかけて食べました。今でも多分この習慣は残っていると思います。

長いもをすり鉢におろし器で擦って入れ、お酒や卵の黄身を入れ、すりこ木でしっかりと搗ります。鍋でシイタケや昆布か鰹節で好みの出汁を取り、適度な濃さの醤油汁を作り、熱いまですり鉢の長いもにかけて良く混ぜます。冷たくもなく、熱くもなく、適度な温かさになります。後は熱々のご飯にかけ、青海苔をかければ出来上がりです。消化にもよく、ご飯が進みます。

信州を離れて60年、結婚して50年近くなりますが、他県の生まれの家内に代わって毎年、私がいも汁を作っています。好き嫌いの多い子供や嫁、孫たちも味に慣れ、楽しみに食べてくれて、我が家の嬉しい習慣になっています。

他にも、元旦は男衆が食事の準備をするとか、三日はおいべつ様と言って、この日にお金を使うと一年中お金で苦勞をするので、一切お金を使わないとか、どんと焼は中学生の仕事で、神木や竹で門松を囲んで焼き、その炭で餅を焼いて食べたり、燃え残った神木は細かく割って、かまどの焚付けとして各家庭にお配りしました。懐かしいお正月の思い出です。

(飯島町出身)



国宝
善光寺本堂

長野市

オリンピック開催地のおもてなし



長野駅



南長野運動公園
総合球技場
「長野Uスタジアム」

皆様の会議、研修、スポーツ大会の開催を
心よりお待ちしております。



長野市芸術館



芸術館 内部(メインホール)



公益財団法人

ながの観光コンベンションビューロー

〒380-0835 長野市新田町1485-1 長野市もんぜんぶら座4階
TEL.026-223-6050 FAX.026-223-5520

ながのご縁を



信都・長野市

<https://www.nagano-cvb.or.jp/>

長野県大阪観光情報センターだより

長野県大阪事務所長 山下 武喜

長野県初開催！ 信州花フェスタ2019

2019年4月25日から6月16日までの53日間、松本平広域公園をメイン会場として「信州花フェスタ2019」を開催いたします。

「信州花フェスタ2019」は緑がもたらす快適で豊かな暮らしのある街づくりを進めるため、国土交通省の提唱で昭和58年(1983年)から全国各地で開催されている「花と緑の祭典」であり、長野県での開催は今回が初めてです。

(正式名称:第36回全国都市緑化信州フェア)

「北アルプスの麓から広がる 花と緑に包まれた しあわせ暮らし」をテーマに「山麓」「里」「まちなか」で展開する 個性豊かな8会場で異なる魅力を発信します。

◆ 会場

メイン/松本平広域公園

(信州まつもと空港 隣接)

サブ/国営アルプスあづみの公園

[堀金・穂高地区] [大町・松川地区]

烏川溪谷緑地

サテライト/松本市・大町市・塩尻市・安曇野市

◆ 5つの魅力

- ① 残雪の北アルプスの麓に広がる絶景の花畑
美しく輝く残雪の北アルプスを背景に700品種・100万株を超える花や緑が彩るメイン会場や40万本のチューリップとユリ が咲き誇るサブ会場など、この時期にしか見ることのできない絶景が皆様をお迎えます。
- ② 国内最大級のガーデンショー
県内外の造園家や県内で庭づくりを学ぶ高校生などが創り上げた100を超える庭園を一堂にご覧いただくことができます。



北アルプスと花の丘 (メイン会場)

③ 信州ゆかりのアーティストによる企画展

「いわさきちひろ・花とあそびの庭」や「劇団四季による企画展」など信州花フェスタだけの特別な企画展を行います。

④ 花と緑に触れ合える体験プログラム

メイン会場では、毎日、花と緑に触れ合える体験プログラムを開催し、サブ会場ではテレビでお馴染みの講師を招いた オリジナル講座を行います。

⑤ ぐるっと巡る 花と緑の舞台

広いメイン会場内を、花や緑を眺めながら、のんびりと巡るロードトレインや、サブ会場とサテライト会場を巡る 全長100kmのサイクリングツアーなど、お子様から大人まで 楽しみながら会場を巡る企画を行います。

このほかにも「国際フラワーフォーラム」や20種類のカエデ探しを楽しむ「森林散歩」など様々な催しをご用意して 大勢の皆様のお越しをお待ちしております。詳しくは同封の冊子をご覧ください。

おいしい信州ふーどを味わおう

県では、信州の豊かな風土に育まれた農畜水産物や主原料が信州産の加工品、信州の暮らしに根ざした郷土食などを「おいしい信州ふーど」と名付け、その魅力を県内外に発信しています。

◆ 信州プレミアム牛肉

信州あんしん農産物生産認定農場で育てられた黒毛和種の牛のうち、県が定めた「おいしさ基準」を満たす牛肉が「信州プレミアム牛肉」です。口いっぱい広がる芳醇な香りにとろける食感。プロも認める本物のおいしさです。

◆ 信州サーモン

「海のない信州ならではの魚がほしい」との声に応え、県水産試験場が約10年の歳月をかけて開発しました。紅色の身は適度な脂がトロリ

ととろける舌ざわりと豊かな風味を醸します。

県では、これら「おいしい信州ふーど」の取り扱い店舗を「おいしい信州ふーどSHOP」として登録し、県ホームページでご紹介しています。信州へお出かけの際は、ぜひ、お近くのSHOPを検索し、お目当ての「おいしい信州ふーど」をご賞味いただければと思います。

今年も就航！ JAL大阪 ⇄ 松本便

今年も8月1～31日の1か月間、JALの「大阪⇄松本便」が就航します。一日一往復で時間は50分。お得な早割もありますので、夏の信州旅行やお盆の里帰りにぜひ、ご利用ください。

◆ 運航ダイヤ(予定)

伊丹 08:40 発 ⇒ 松本 09:30 着
松本 10:10 発 ⇒ 伊丹 11:00 着

全国高校駅伝 観戦記

全国高校駅伝競争大会(男子69回、女子30回)が平成30年12月23日(日)に京都市西京極陸上競技場を発着地として開催された。

午前の女子は長野東高校が12年連続12回目の出場場で、各選手が快走を見せ、小原選手の区間賞もあって、2位で最終5区に襷を渡したが、神村学園・留学生タビタ選手の男子並みの走りに抜かれ3位で競技場に戻ってきた。しかし、小林選手がトラックの競合いで感動の走りを見せて仙台育英をかわし、1時間7分51秒で2年連続の2位となった。

午後の男子には21年連続21回目出場の佐久長聖

高校が出場し、エース濱野選手・負傷欠場と大きなハンデがあったが、アンカーの富田選手がトラックで九州学院と激しい競合いを見せ、同タイムの5位に入った。

応援に駆け付けた県人会会員らはスタンドから声援を送り、女子・男子続けてのトラックでの競合いに、「こんなスリルと感動は二度と無いだろう!」などと地元からの応援団とともに喜び、歓声をあげた。

選手宿舎 激励訪問

大会前々日の21日(金)、両校の選手宿舎の聖護院・さわや本店へ関係者と激励訪問し、長野東・玉城監督と佐久長聖・高見澤監督に激励の言葉と金一封を贈りました。両監督からは頼もしい言葉が聞かれた。

中井 良策(佐久穂町出身)



全国高校ラグビー大会 岡谷工業の健闘を讃える

全国高等学校ラグビー大会は「冬の花園」といわれ、今回98回を迎える歴史のある大会だ。近畿長野県人會では「甲子園」「軟式野球」「京都の駅伝」「冬の花園」と、多くの全国大会に応援団を送り込んでいて、私も毎年これらの応援を楽しみにしている。

「冬の花園」へ県勢の出場校を調べてみると98回中46回の出場。内訳は岡谷工30回・飯田8回・下伊那農7回・飯田長姫1回と、南信の4校だけが出場。岡谷工がダントツの出場回数を誇る。

今回は岡谷工が30回目の出場。田舎からLINEでメンバーに富士見中学出身者が3名もおり、親戚の植松丈(たけし)君が出ると伝えてきた。

大会初日の12月27日近鉄・東花園駅に降立つと「2019ラグビーワールドカップ歓迎」の看板など、ラグビームードに沸き立つ街に我々の胸も高鳴る。対戦相手は和歌山工業。前半は苦戦したが、岡工はスクラムが強く、我々の声援とともにジリジリ前進、見事なトライで13対7の逆転勝利。長野県からバスで駆けつけた応援団と1回戦突破を喜んだ。

2回戦は12月30日。1回戦の2倍の応援団がバスで駆けつけてきた。私の所も長男一家が横浜から帰省したので長男と孫と3人で県人會の応援に加わった。対戦相手は優勝6回の名門・天理。前半は0対38、後半は一矢報いる執念のトライで5対5と互角の戦い。結局5対43で敗れたが、後半の戦いは立派であった。岡谷工業の今後ますますの健闘に期待したい。

植松 高志(富士見町出身)



皇后杯女子駅伝 観戦記

第37回皇后杯全国都道府県対抗女子駅伝大会は1月13日、西京極陸上競技場を発着する9区間42.195kmで行なわれ、長野県チームは県最高記録に並ぶ2時間17分47秒で、過去最高の6位に入った。入賞は8位になった2009年以来10年ぶり2度目。

1区で高松いずみ選手がトップと17秒の小差で2区に襷を渡す。2区では和田有菜選手が9人抜きで8位に浮上。4区では小林成美選手が区間トップの快走で5位に。5区以降も上位でレースを進め、最終9区の細田あい選手が後続の追上げを振り切り6位をキープしてゴールした。

小林成美選手は4区の区間賞とともに優秀選手賞にも選ばれた。



選手激励会

大会前日の1月12日(土)17時30分から下京区の魚岩旅館で、長野県教委、県体協、長野陸協、京都長野県人會などが出席して選手激励会が行われた。

木戸岡団長の挨拶と玉城監督・選手・コーチ・トレーナーが紹介され、各関係者から激励品・金一封を贈り健闘を祈った。

アンカーの細田あい選手が「8位以内でゴール」と頼もしい決意を述べた。



選手団 慰労会

閉会式の後、18時から京都東急ホテルで京都長野県人會の新年祝賀会を兼ねて女子駅伝選手団慰労会が開催され、選手団30名、県関係者8名、近隣の県人會7名を加えた82名が出席した。(別掲・P.5)

中井 良策(佐久穂町出身)

事務局だより**○事務局長が交代 遠藤正典副会長が就任**

定期総会の役員改選に合わせて事務局長が交代、掛川俊一副会長（小諸市）が退任、遠藤正典副会長（辰野町）に委嘱されました。

前任の掛川副会長は、平成20年2月に事務局担当となり、22年8月からは事務局長として、11年の長きにわたり県人会の事業運営を担っていただきました。今後アドバイザーとして事務局をご支援いただきます。

[事務局メンバー]

遠藤正典副会長・事務局長

中村紘一常任理事、島田宗人常任理事

・財務部会兼務

太田豊和副会長、北澤正俊常任理事

*事務局として月・木に交代で勤務しておりますので、お立ち寄りください。

副会長会の開催**○平成30年12月13日(木)10時30分**

大阪市立総合生涯学習C第3会議室

出席者 18名

(1)平成31年定期総会議案について

(2)新年懇親会開催について

日程、会場、当日会費8,000円を決定

(3)役員会の開催について

役員会の開催**○平成31年1月15日(火)15時**

大阪市立総合生涯学習C第5研修室

出席者 31名

(1)平成31年定期総会議案について

(2)総会・新年懇親会について

プログラム、運営体制・役割分担など決定

ご 逝 去 (敬称略)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

理事・向山英夫(塩尻市) 平成31年1月23日

新入会員の紹介 (平成30年9月以降)

(敬称略：氏名・出身地＝紹介者)

竹井 廣子	(佐久市)	=	秋山 多喜子
横井 司	(尼崎市)	=	藤保 君子
田口 陽子	(長野市)	=	太田 豊和
麻生 芳子	(福岡県)	=	藤保 君子
篠原 政子	(岡谷市)	=	木村 憲行
浅井 功	(塩尻市)	=	平林 運敏
重盛 徹志	(伊那市)	=	部奈 久能
清野 勝	(豊丘村)	=	高坂 昌利
樽屋 昌明	(大阪府)	=	高坂 昌利
大塚 敏孝	(小川村)	=	事務局
中村 亨	(伊那市)	=	木村 憲行
千野 眞士	(諏訪市)	=	事務局
坂田 正雄	(須坂市)	=	小林 昭夫
田中 ひとみ	(下諏訪町)	=	田川 善弘
丸山 明	(池田町)	=	重盛 徹志
山本 尚美	(松本市)	=	根師 資子
市川 紀征	(東御市)	=	事務局
西山 紳一	(松本市)	=	遠藤 正典
伊崎 律子	(松本市)	=	根師 資子
矢島 利久	(松本市)	=	三沢 勁佐雄
浦野 正一	(伊那市)	=	遠藤 正典
塚本 紀子	(兵庫県)	=	藤保 君子

編集後記

会報「信濃」が昭和38年12月の創刊から56年を経て100号という節目を迎えることができました。先輩の方々のご努力と会員の皆様のご協力に、改めて敬意を表したいと思います。創刊時の思い出など寄稿文を特集して4ページを増やしましたが、予算の都合で中間に白黒の印刷が入り、記事の配列もズレたりしています事、ご容赦ください。

「継続は力なり」の言葉を胸に、バトンをリレーしていきましょう。(安藤 隆雄 記)



メイン会場 (北アルプスと花の丘)

サブ会場 (堀金・穂高地区)



第36回 全国都市緑化信州フェア

信州花フェスタ2019

～北アルプスの贈りもの～

2019年 4月25日 (木) ～ 6月16日 (日)

- ・メイン会場 松本・塩尻会場 長野県松本平広域公園 (信州スカイパーク)
- ・サブ会場 安曇野会場 国営アルプスあづみの公園 [堀金・穂高地区]
長野県烏川溪谷緑地
- 大町会場 国営アルプスあづみの公園 [大町・松川地区]
- ・サテライト会場 松本市、大町市、塩尻市、安曇野市 各市内

各会場の詳細やイベントについては公式WEBサイトをご覧ください。 [信州花フェスタ2019](#) 検索

画像はフェア開催時のイメージです。

長野県大阪事務所

〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階

TEL : 06-6341-7006 FAX : 06-6456-2889

E-mail : osakajimu@pref.nagano.lg.jp

観光情報、移住相談、産業立地などについてもお気軽にお問合せください。